

要求
実現

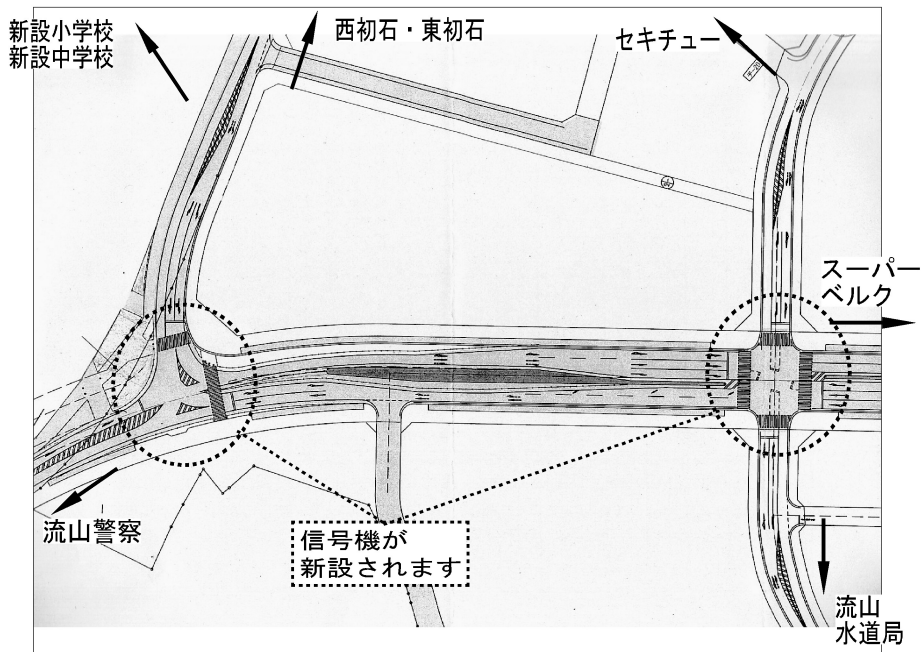
魚べい前交差点ー右折信号設置へ 通学路の安全対策を進めよう



小田桐たかし

日本共産党市議会議員

今年度中に、ベルク脇の道路は、流山警察方向に抜ける（暫定供用）こととなり、セキチュー前交差点の渋滞が一定改善されることになりました。暫定的な道路幅員ですが、新設小・中学校通学路の安全対策は必須です。力を合わせ改善しましょう。



セキチューー前交差点の大渋滞
新設道路が接続され、車の流れが変わります



右折レーンはあるのに、右折信号がない：そんな交差点が多いおたかの森駅周辺。住民やバス運転手、日本共産党が運動し、魚べい前交差点に右折信号が設置されることになりました。

引き続き、他の交差点にも右折信号等設置を求めていきたいと思います。

教育行政への不当な介入は許されません

新設小学校（開校2021年4月予定）の学区案についての説明会が、昨年12月16、17日に開催。市長が決定した学校予定地、学校規模を補うために設定された学区素案への批判が渦巻く下で、「48学級を超える小学校は、少人数学級ではなく国の規定に戻し、担任サポートを配置する」との方針を市教委が説明。とうとう少人数学級まで後退させるなど、新たな課題を生んでいます。

学力向上につながる『少人数学級』まで後退

小中学校における『少人数学級』は、いま全国各地で積極的に導入されています。

千葉県教育委員会は2001年度から導入し、流山市内でも実施。市内学校アンケートでは、8割以上が「あてはまる」

効果として：「子どもの学習意欲の向上」、「子ども一人ひとりの理解度や進み具合に応じた指導」、「子どものノートや作品等を丁寧に見れる」、「子どもの発言を大切に授業を展開できる」、「授業による体験（観察・実験・創作・実技等）の機

1学級の人数	千葉県	国規定	
小学校	1年生	35人	35人
	2年生	35人	40人
	3年生	35人	40人
	4年生	38人	40人
	5年生	38人	40人
	6年生	38人	40人
中学校	1年生	35人	40人
	2年生	38人	40人
	3年生	38人	40人

会を一人一人に保障しやすい」、「教師と子どもと触れ合う時間が増える」としています。

子どもや学校現場のための重要な施策まで後退させてまで、「付度」しなければならぬこととは何でしょうか。

教育行政の歪みを質すカギは市民の共同です

少人数学級を後退させる代替案に浮上した『担任サポート』。しかし市教委は、人を配置する予算も決定権も持っていません。つまり、予算執行権を持つ市長の承諾が必要です。

「いつ、だれが決定したのか」：小田桐市議が一般質問で4度繰り返し詰め寄り、市長は「12月中旬頃に承諾した」と答弁しました。

文科省の懸念通り

文部科学省は昨年、小田桐市議に

「首長の考えなど配慮はあるが、戦後現場で積み重ねた教育実践に基づく定義に真剣に向き合ってください」と懸念を示していました。

今回、少人数学級の後退に対し、教育委員会でも了承はなく、現場教員からの聞き取りも、説明もしていません。

将来を見据え、全市民に責任を持つ立場での教育行政の運営が今ほど求められている時はありません。力を合わせましょう。